

- 地質や地下水の状況を事前に把握するため、**調査ボーリング※**を行います。

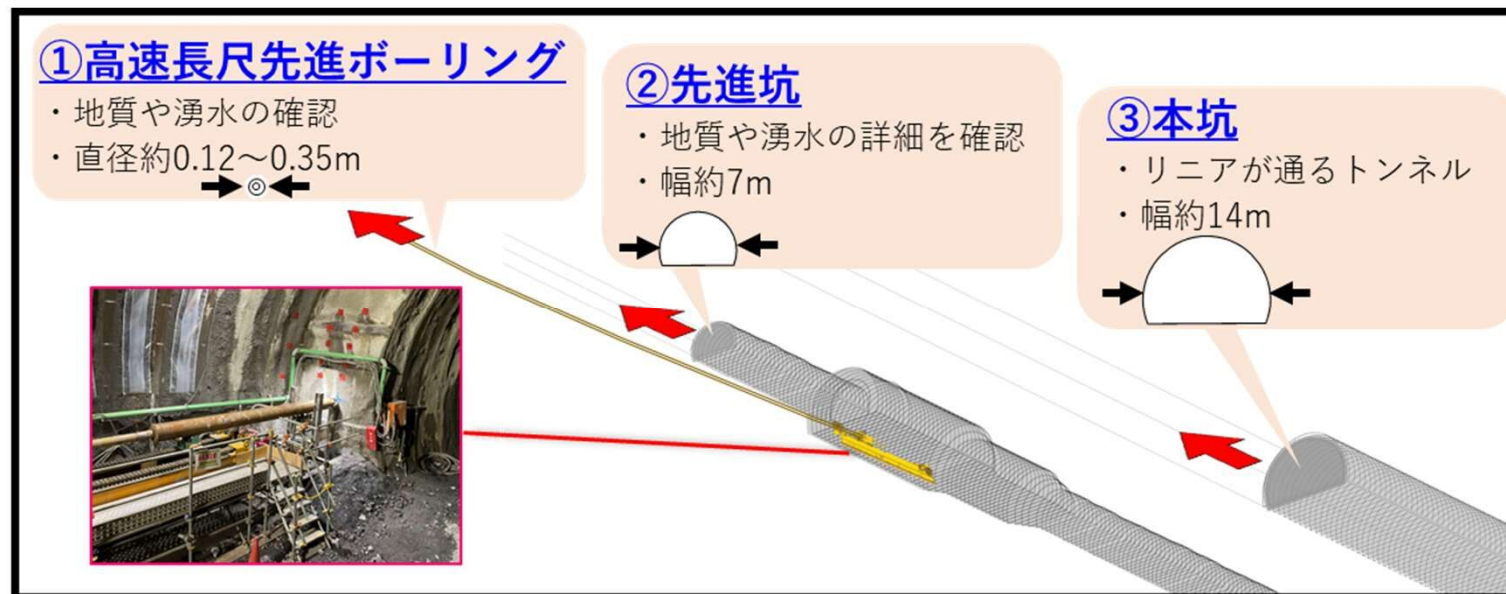
【下図①】

※南アルプストンネルは、最大で地下1,400mに位置し、地上から計画位置を調査することが困難であるため、先進坑内から水平方向に「**高速長尺先進ボーリング**」で調査を行います。

- 調査により得られたデータをもとに、計画する本坑の横に一定の離隔を確保して小さな断面の**先進坑**を掘削し、地質や湧水の詳細を確認します。

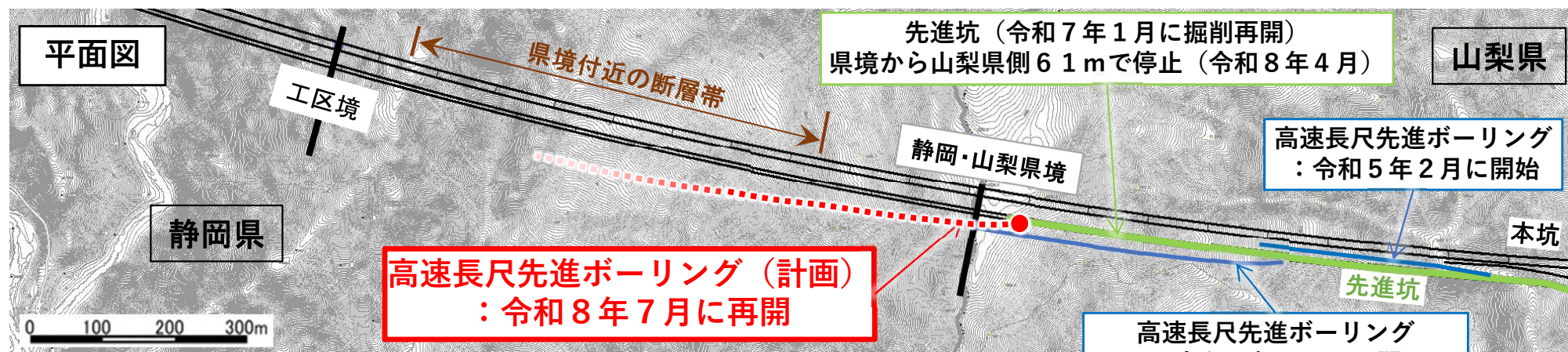
【下図②】

- 先進坑の掘削により得られたデータをもとに、リニアが通る**本坑**の施工計画を策定し、掘削します。【下図③】
- なお、**調査ボーリング**により判明した湧水量の多い箇所や地質が変化する箇所等では、必要に応じてコアボーリングにより岩石の試料を採取し、その結果も踏まえてより慎重にトンネルを掘削します。

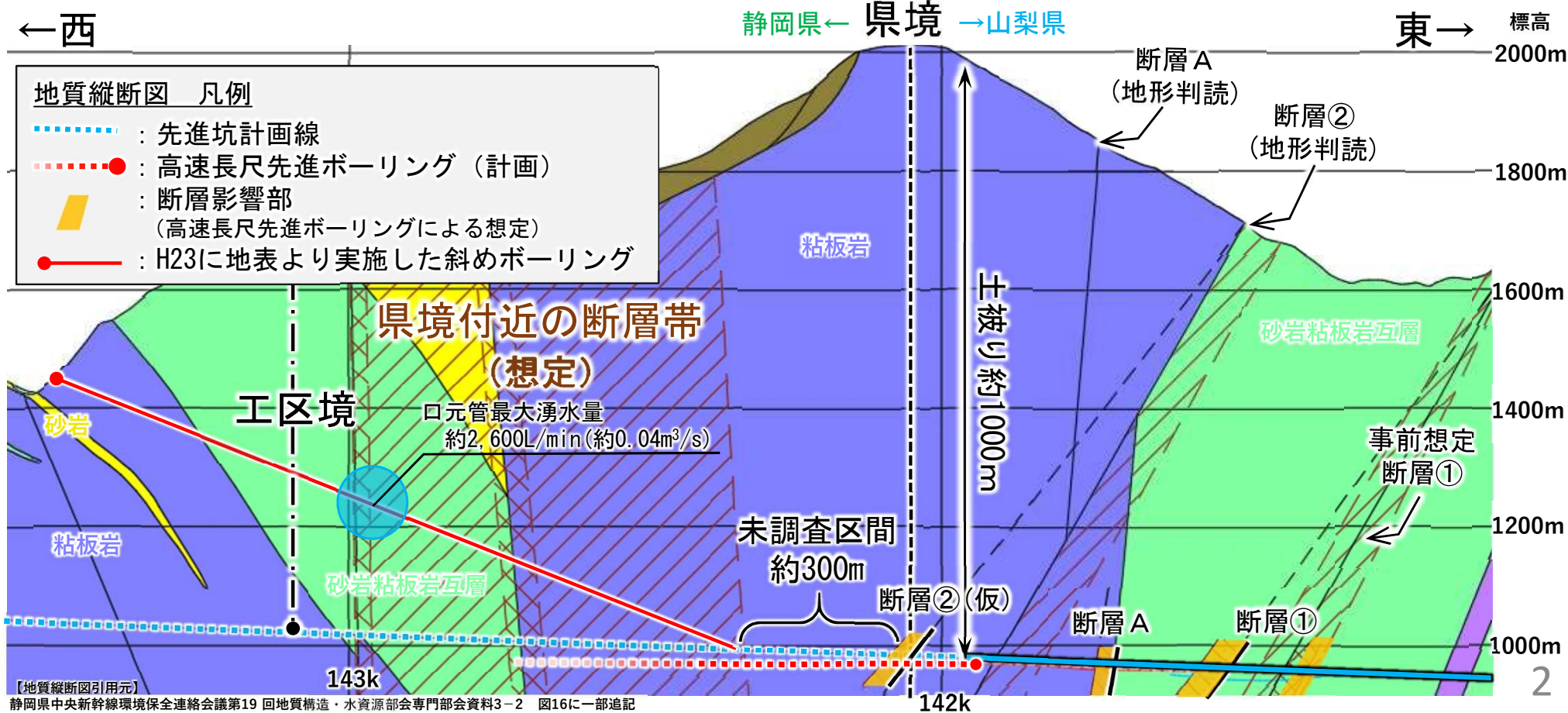


静岡県内に向けた高速長尺先進ボーリングの計画

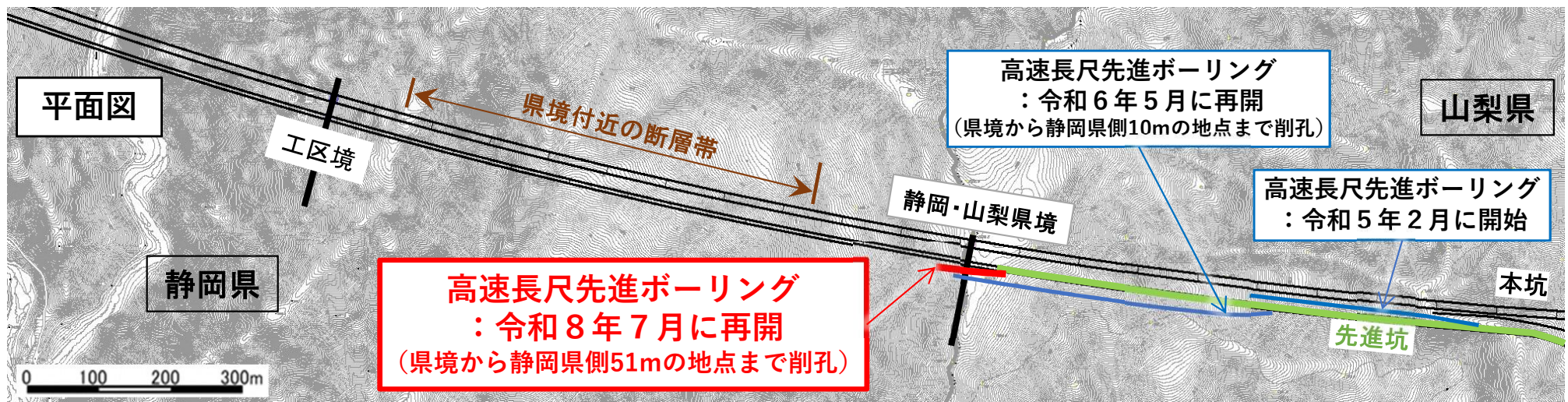
資料5



高速長尺先進ボーリングの計画



- 7月15日に、南アルプストンネル山梨工区において、山梨県内の県境から75mの地点より静岡県側に向けて高速長尺先進ボーリングを再開しました。
- その後、8月21日に県境を越え、8月28日時点では、県境より静岡県側に51m地点まで削孔を進めています。10mあたりの湧水増加量は最大で0.00002m³/秒であり、管理値（10mあたり0.05m³/秒）と比較しても非常に少ない状況です。
- これまでの静岡県地質構造・水資源部会専門部会における対話を踏まえ、設定した湧水量の管理値や管理フロー等に基づいて、引き続き慎重にボーリング調査を実施しています。
- ボーリングの状況については、日毎に静岡市等に報告するとともに、週毎に弊社HPに掲載しております。



高速長尺先進ボーリングの状況